

資料 8.

[件名] 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する
法律施行規則の一部を改正する省令案（概要）に関する意見

[宛先] 環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室

[氏名]（企業・団体の場合は、企業・団体名／部署名／担当者名）

[郵便番号・住所]

[電話番号]

[FAX番号]

[御意見]

1 該当箇所（2ページ20行目～21行目）

2 意見内容 「また,麻醉銃は射撃場での練習ができず,有効射程距離が短く高度な技術を必要としない」の記述について,麻醉銃の有効射撃は猟銃とほぼ同じであり,フリーレンジの野生動物を捕獲する場合,高度な技術を必要とします。誤解を招く可能性があるため削除または修正を希望します。（100字以内で簡潔に記載）

3 理由（可能であれば、根拠となる出典等を添付又は併記してください。）

ライフル型麻醉銃の有効射撃距離は,約70mあります1) 2)3)。これは猟銃と変わらない射撃距離です。

有効射撃距離が短いという表現は不適切です。また,麻醉銃は、産業銃のため猟銃所持に必要な筆記試験,実技試験が必要でないため書類上,所定の手続きを行えば所持が可能ですが,麻醉銃の基本的な扱い方を習得し,射撃練習しないと捕獲することはできないと思われます3)4)。

麻醉銃の適切な発射圧は、動物までの距離や傾斜、風向き、風速によって変化します。

動物の位置、姿勢、動きを予想し発射圧を瞬時に決定しなければなりません3)4)。確実に的中させるためには、高度な技術と経験が必要であり、常にトレーニングを積んでおくことが重要であると考えます。

根拠となる出典：

1)Dan-inject (2014) Producers Descriptions.(<http://daninjectdartguns.com/>)

2)Telinject (2014) Visit our catalog featuring blowpipes, rifles,pistol, syringes and accessories.(<http://www.telinject.com/>)

3)森光由樹（2015）法改正で期待される麻醉銃捕獲の成果と課題～アーバンワイルドライフ問題解決に向けて～野生生物と社会 第3巻1号 p.1-6

4)森光由樹（2012）「捕獲と標識技術」, 野生動物管理-理論と技術-（羽山伸一・三浦慎吾・梶光一・鈴木正嗣編）文永堂出版 . pp169-193.